

2022年度 年末手当第2回交渉～要求の根拠～

中央本部は11月2日に「2022年度年末手当第2回交渉」を行ないました。

組合の要求の根拠

- ・上半期の収入動向は、対前年で100.7%、輸送量においても100.2%となっている。これは要員がひっ迫する中でも、災害時等の対応を献身的に行ない収入確保に努めてきた結果である!
- ・消費者物価指数の増加は13カ月連続となっており、家計への圧迫は一段と強まっている!春闘の0.1%の賃上げでは物価上昇を補えていない!社員の生活を保障する責任は会社にあり、期末手当は生活給の要素が強い!
- ・若年退職が後を絶たず、技術断層が発生し安全が脅かされている!要員がひっ迫する中、コロナ陽性によりクラスター直前の状態が職場で多数発生し、綱渡りの状態で仕事を行なっている!そのような状態でも、私たちは列車を一本も運休させずに安全・安定輸送に努めてきた!
- ・新人事賃金制度導入から3年以上が経過したが、不信・不安・不満が依然として出ている。「生き生き伸び伸びとやりがいを感じられる」というが、最低賃金スレスレの基本賃金で、物価高に晒されている青年部員は「もはや限界」というのが職場の実感である!!

組合の主張を受けて会社は

- ・消費物価指数の増加は無視できない。だが、期末手当は「原則業績給」ということには変わりはない。
- ・予想外に苦しい経営状況である。経済活動は戻りつつあるが、円安による買い控えで荷物が動いていない。
- ・当社の賃金は低いと思わない。JRグループの中においても下の方ではない。

**社長は職場を巡回し職場の現実を把握していることから我々の主張の意味はわかるはず!!
物価が今後も上がるとされている中、会社は青年部員の生活に責任をもつべき!!**